２００７年6月6日

富士通総研　第２１回経済研究フォーラム

インターネット活用の新たな潮流を聴講して

経団連会館１１階　国際会議場で開催された標記のフォーラムに参加した。冒頭の理事長の挨拶にあったように、最先端の研究スタッフによる発表だけあって新たな潮流を的確にカバーしたすばらしいフォーラムであった。

（1）　SaaS は何をもたらすか：サイバー大学 IT 総合学部教授　前川徹氏による発表である。SaaS とは Software as a Service のことで、ベンダーが開発したソフトウエアを、ベンダー側のサーバーにインストールして、ユーザはウエブ・プラウザを通じてそのサーバーにアクセスして利用する仕組みである。ユーザの視点からは「所有」から「利用」へ、ベンダーの視点からは「商品の販売」から「サービスの提供」と言えよう。事例として Salesforce.com、ビジネス・オンライン、Google Docs & Spreadsheet、米国における業務アプリケーション、日本における業務アプリケーション、デスクトップ・アプリケーションについて詳しい説明があった。SaaS のメリット・デメリット、SaaS とソフトウエア・ビジネスの将来についても説明があった。

（2）　進化するインターネットのインパクト：FRI 上級研究員　湯川抗氏による発表。昨年１１月にサンフランシスコで開催された Web2.0 Summit 2006 （業界を代表する企業の CEO、企業家、VC、指導者など５０名強の発表があり、業界のこれからを予測させる会議）の概要の説明、User Generated Contents(UGC)の台頭、ソーシャルメディアへと進むインターネット、日本の現状と対応などの説明があった。

（3）　CGM と消費者の購買行動：FRI 主任研究員　浜屋敏氏による発表。CGM とは Consumer-Generated Media（消費者生成メディア）すなわち、インターネットなどを活用して消費者が内容を生成していくメディア、特に、ブログと SNS(Social Networking Service)および BBS(Bulletin Board System)を利用した商品情報・クチコミサイトに注目。ある仮想的な消費者の購買行動を例に講演者が開発した購買行動モデルについて説明し、企業などがどのように活用したらよいか解説した。

（4）　新しい ITC の利活用とイノベーションーブロブ・SNS 等によってもたらされる変化ー：FRI 主任研究員　峰滝和典氏と上級研究員　吉田倫子氏の共同研究。ICT とは Information and communication Technology の略。ブログや SNS をイントラネットの中で利用する際、ソーシャル・キャピタルお構造的側面、関係的側面、認識的側面が新製品・新サービス、新企画にどのように影響するかを膨大なアンケート調査（企業規模、管理職と従業員、消費者など）によって相互関係を明らかにした。

（5）　オープンからクローズドへーモジュール化の終焉ー：慶応大学経済学部准教授　田

中辰雄氏の特別講演である。オープン化とは全ての部品を自社で作り組み立てて売るのではなく、一部だけを担当し、後は不特定多数の他社に任す商品開発システムのことで、その対極にクローズド化（囲い込み型）がある。一方、技術革新には突破型革新と改良型革新がある。講演では突破型から改良型への長期サイクルについて、自動車、家電、情報通信について述べ、突破型革新が盛んな場合、オープン型が成功を収め、改良型に革新過程が移行するとクローズド型が効果的となる。情報通信分野で見ると過去２０年間は突破型革新過程であり、オープン型が良いとされて来たし、事実その通りであったが、突破型革新が一段落してきた現在、クローズド型が強みを発揮するのではないか。その点、統合型サービスに強い日本企業にビジネスチャンスが期待される。

以上